

「地方創生」 国の計画に翻弄?

上越市の地方創生の取組

3日午後行われた総務常任委員会では、地域再生計画(地方創生推進交付金事業)についての報告と審議が行われました。

市当局は、地方創生の取組の全体像と個別事案の概要を示し、この間の経緯を説明しました。

全体像では、「産・官・学・金・労・民」の55団体などで構成する「上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会」などが推進する「上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をもとに、人口減少傾向の緩和などをめざすとしています。

また、個別事案に関する『地域再生計画』を国に提出して交付金を受けるしくみとのことで、すでに二つのテ

マの計画を提出しており、まもなく採択される見通しとのことです。

二つのテーマは、「城下町高田の歴史・文化をいかした『街の再生』」と、「雪室・利雪による地域産業イノベーション」で、この他にも今後具体的テーマを設定して推進したいとしています。

国は、自治体に計画の提出を求めつつ、あらかじめ定めたテーマからの逸脱を許さないなど、交付金の条件が厳しく、国のしくみに翻弄されているような印象がいなめません。

約30人が参加し、

真剣な意見交換



日本共産党議員団は5日、市政報告会を開催し、市政の状況と議会活動について報告しました。約30人の市民が参加しました。秋には県知事選が迫っていることもあり、竹島良子前県議を招きました。竹島前県議は、新潟県の医療の現状と課題について報告しました。この報告では、市民のいのちを守る医療を実現するためには、県政の課題と市政の課題を関連させてとらえる視点が重要だということ浮き彫りになりました。

日本共産党議員団 改選後初の市政報告会

続いて、平良木議員が、改選後の市議会での新たな体制、5月の臨時議会や6月の定例議会での焦点、今年度市予算の特徴などについて報告しました。

報告では、今年度予算はいわゆる「箱物」に関する建設予算が突出していること、今後も「箱物」の建設が計画されていること、議会のたびに契約案件では不透明な点が指摘されていることなどが述べられました。

参加者からは、「医師不足が続いているが、医師確保について県が行っている施策、制度を教えてください」「ほしい」「ほくほく線の電車にはトイレがついていない。なんとかしてほしい」「学童保育の料金が上がって困っている。どうやったら下げさせることができるのか」「労災病院の診療科が減ってきている。どういう運動を起こせばいいのか」「(仮称)厚生産業会館建設問題では、実施設計が基本構想とは大きく異なったのに、地域協議会に再諮問はなかった。制度として

検討すべきだ」「儀明川はどぶ川となっている。きれいにして、治水、排雪対策だけでなく、まちづくりのなかに位置づけるべきではないか」「改選後の市議会には無所属がいなくなり、全て会派に参加した。これをどう見ているのか」「ガス水道局だけでなく、市長部局の発注には談合と思しきものがたくさんある。他市では、談合問題に詳しい議員が目安箱を設置して市民からの情報提供を呼びかけているなどの例がある。議員団としてぜひ積極的に取り組んでほしい」「市長選に共産党はどういう姿勢で臨むのか」など、たくさんの声を寄せていただきました。

医療をめぐる問題では、竹島前県議から「市内の病院経営者と懇談を行うことで、問題点や市民運動の方向が明らかになる」という貴重な助言がありました。また、医師不足の解消のためには、国による全国的視野での医師配置政策を押し進めることの重要性が明らかになりました。

上越妙高駅 2階にもトイレが必要

3日午前に行われた交通政策調査対策特別委員会では、「上越妙高駅周辺の開発の進捗状況について」と「北陸新幹線の利便性向上と並行在来線等の現状と課題について」の2点について、

報告と審議が行われました。

最初に橋本議員が指摘した上越妙高駅2階の自由通路にトイレがない件では、市当局は、「トイレ設置は物理的に不可能。案内を増設するなど、ソフトの面で改善しつつある」と答弁しました。

しかし、他の議員からも「多くの市民や観光客に不便を強いている」「何らかの対策をとるべきだ」といった強い言葉での指摘が相次ぎました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 510 2016年8月14日

連絡先
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)